

2017.8.24
vol.59

シネマ・ド・リぶらの コラム・ド・シネマ

映画
を
読む

『あん』 関連資料

『あなたという国』 ニューヨーク・サン・ソウル	ドリアン助川／著	新潮社	913.6
『プチ革命 言葉の森を育てよう』	ドリアン助川／著	岩波書店	800
『クロコダイルとイルカ』	ドリアン助川／作	映画『じんじん』事務局	E
『あん』	ドリアン助川／著	ポプラ社	913.6
『夕焼けポスト』 心がラクになるたったひとつの方法	ドリアン助川／著	宝島社	913.6
『バカボンのパパと読む「老子」』	ドリアン助川／著	角川マガジズ	124.22
『ベルリン発プラハ』	ドリアン助川／著	幻冬舎	913.6
『ドリアン助川のもう君はひとりじゃない』	ドリアン助川の正義のラジオ! ジャンベルジャン!／編	ニッポン放送プロジェクト	159.7
『食べる』 七通の手紙	ドリアン助川／著	アリアドネ企画	914.6
『湾岸線に陽は昇る』	ドリアン助川／著	講談社	911.56
『ハンセン病 日本と世界』 病い・差別・いきる	ハンセン病フォーラム／編	工作舎	498.6
『隔離の記憶』 ハンセン病といのちと希望と	高木 智子／著	彩流社	498.6
『きみ江さん』 ハンセン病を生きて	片野田 斉／著	偕成社	289.1
『病いの共同体』 ハンセン病療養所における患者文化の生成と変容	青山 陽子／著	新曜社	498.6
『闇を光に』 ハンセン病を生きて	近藤 宏一／[著]	みすず書房	916
『多磨全生園・<ふるさと>の森』 ハンセン病療養所に生きる	柴田 隆行／著	社会評論社	498.6
『ここに人間あり』 写真で見るハンセン病の39年	大谷 英之／著	毎日新聞社	498.6
『島の65年』 ハンセン病療養所邑久光明園から	崔 南龍／著	解放出版社	498.6
『差別とハンセン病』 「柵の垣根」は今も	畑谷 史代／著	平凡社	498.6
キネマ旬報 2015-2 上旬号 No.1681	インタビュー	永瀬正敏	
キネマ旬報 2015-6 上旬号 No.1689	「あん」- 役者の原点	樹木希林	
キネマ旬報 2015-7 上旬号 No.1691	対談「あん」	樹木希林	
キネマ旬報 2016-4 上旬号 No.1713	特別寄稿『あん』	河瀬直美	



吉野太一郎：映画「あん」で問いかけた「生きる意味」とは 原作・ドリアン助川さんに聞く

ハンセン病の元患者と、中年のどら焼き職人の交わりを描いたドリアン助川原作、河瀬直美監督の映画「あん」が、ハンセン病というテーマを描いた作品としては異例のヒットとなっている。第68回カンヌ国際映画祭「ある視点」部門のオープニング作品に選ばれ、日本国内でも約150館で上映、世界45カ国でも上映が決まっている。

物語は、罪を犯して出所し、借金を抱えながらどら焼き店で働く千太郎（永瀬正敏）の店に、年老いた徳江（樹木希林）がアルバイトを志願することから始まる。徳江が小豆に語



©2015 映画『あん』製作委員会 / COMME DES CINEMAS/TWENTY TWENTY VISION/ZDF-ARTE

りかけながらゆでる餡（あん）のおいしさに、店は評判となり繁盛する。徳江はハンセン病療養所に住み、所内で菓子作りを学んでいた。しかし店主は、徳江の曲がった指を見て仙太郎に命じる。「あの人、『らい』よ。やめてもらってちょうだい」。風評が広がったのか、店への客足は遠のき始める。徳江もいつしか店を去るが、千太郎と常連客の中学生ワカナ（内田伽羅）は、ハンセン病療養所に住む徳江を訪ね、交流を深めていく。

原作（ポプラ文庫）の筆者で、自ら朗読劇の出演者として全国を回る予定のドリアン助川さんに、作品を執筆した経緯や、映画への思いなどを聞いた。

——原作はどういった経緯で生まれたのですか。

1990年代に「正義のラジオ ジャンベルジャン！」というラジオの深夜番組をやっていて、10代の中高生と



生で話していました。よく俺が投げかけたのが、本当に青臭いんですけど「どう生きたら納得できるのか」ということ。たくさんの子が割と紋切り型に「社会の役に立ちたい」「人の役に立ちたい」「そうでないと生きていく意味がない」と言うけど、俺は内心、何か隙がいっぱいある言葉のように思えたんですね。

当時バンド（「叫ぶ詩人の会」）をやっていて、レコード会社の担当プロデューサーの子供が2歳で亡くなったんです。心臓に大きな病があって、病院から一歩も出られず、僕が誕生祝いに贈った小さな靴を1回も履くことなく、一緒に棺に入れられた。

その子の人生にどんな意味があるんだろうと思ってた頃、1996年に「らい予防法」が廃止されて、ハンセン病の患者たちの人生がメディアで浮き彫りになったんです。子供の時に発病して療養所から出られず、70歳、80歳になった人たちにも絶対、生まれてきた意味があるはずだし、「人の役に立たないと」という言葉の暴力性を感じたんですね。ハンセン病の療養所を背景に、本当の命の意味を書こうと誓った。でも北条民雄さんなど、患者の手記を読むと、壮絶すぎて、心がやけどしたようになる。

患者でもない人間が、無理かな、おこがましいかな、と、手が出ない状況が続いていました。

——何が転機になったんですか？

バンド解散後、ニューヨークに渡って別のバンドをやったけど、2002年9月に日本に帰って来た。仕事はない。本を年4冊出しても、初版で終わっちゃうと年収200万円にもならないんだよね。子供の学費を払えるかどうか、ぎりぎりの生活でした。多摩川の土手にあるアパートで家族3人暮らしていて、あるとき気づいた。回りは高級住宅街だけど、俺には何も無い。もう「所有する人生」なんて今後ないだろうという自由さ。「あっ、この多摩川は俺のものだ」。なんだ、世界ってもともと与えられてるじゃん。



©2015 映画『あん』製作委員会 / COMME DES CINEMAS/TWENTY TWENTY VISION/ZDF-ARTE
配給：エレファントハウス

地球外生命は見つかっていない、俺たちは宇宙でかなり孤立した存在らしい。ではなぜ生命が存在するのか。宇宙は認識する主体がいなければ消滅してしまうからという「人間理論」です。多摩川の土手を自転車で رفتり来たりしているとき、実感としてそれがわかった。

生まれてから死ぬまで椅子に座り続けて、花や光や鳥を、地球や宇宙や人生を真剣に受け止め続けた人生があったら、それは無意味ですか？ 宇宙的にはあつぱれな人生じゃないか。療養所に閉じ込められてしまった人生でも、垣根を越える心を持って、月や木と話をする人がいたら、すばらしい人生じゃないか。「あん」のラストで、療養所内の木々が「よく頑張ったな」と徳江さんに語りかける、そのシーンから空想が始まったんです。

そして2009年2月に埼玉県所沢市で呼ばれたライブに、お年を召された男女3人が最前列にいた。終わって聞いたら、ハンセン病療養所の「多磨全生園から来ました」と言う。そこで初めて、本当の元患者さんたちと出会ったんです。「療養所に遊びにいっちゃい」と誘われて行ってみたら、びびっちゃいました。手に穴が空いている人も、鼻がない人もいる。そこで森本美代治さんから、ハンセン病の歴史などを始め、いろいろ教えていただきました。

——どんなことを？

森本さんは中学生のときに発病して、療養所を転々とするんですが、岡山に日本で唯一あったハンセン病患者の子供の高校に入学するとき、客車でなく貨車に載せられて、広島駅で消毒薬を頭からかけられる。その後、東京の全生園に移って、12人の雑居部屋でしつけなど厳しく教えられた。その厳しく教



©2015 映画『あん』製作委員会 / COMME DES CINEMAS/TWENTY TWENTY VISION/ZDF-ARTE
配給：エレファントハウス

えた人が製菓部のおじいちゃんだったんです。療養所は、火事になっても消防が来てくれない「ミニ国家」だから、手に職ある人が「国家」を支えていかなきゃいけない。たぶん菓子職人だった方を中心に、患者さんの誕生日や盆と正月に甘いものをつくる「製菓部」という集まりをつくっていた。俺はその頃、パティシエの小説を書こうと製菓学校に通っていて、一般教養であんこも作っていたから、初めて「書ける」って思った。

森本さんがどうしても勉強したくて、消灯後に毛布をかぶって1時間だけ勉強するのを許されたこと、療養所を脱走して慶応義塾大学に入るんだけど卒業後に再発して、自ら療養所に戻って、その後の20数年は自殺することしか考えていなかったこと。そういう話をしてもらって、発見が相次いだわけ。ハンセン病の知識がほとんどない俺みたいな奴が、患者さんと出会うことで差別の歴史を知り、最終的にはハンセン病も関係なく、人間って、生きている意味って何なんだと問いかけられればいい、と思った。森本さんも「その方が広がります。患者のことは患者が書けばいいから」とおっしゃってくれました。

徳江さんの少女時代は「人間回復の瞬間」という、星塚敬愛園（鹿児島県鹿屋市）の元患者、上野正子さんの手記からヒントを得ました。上野さんはお父さんに連れられて療養所に来て、お父さんが帰ってしまうんです。何度めげても立ち上がる少女のイメージができました。

——映画化はどういう経緯で実現しましたか。

単行本が2013年2月に出版されてから、角田光代さんや中島京子さん、その他いろんな方が書評を書いてくださって、あれあれ、という間に広がった。すぐにNHKが西田敏行さんと



©2015 映画『あん』製作委員会 / COMME DES CINEMAS / TWENTY TWENTY VISION / ZDF-ARTE
配給：エレファントハウス

竹下景子さんと、ラジオで連続ドラマを6回やってくださった。映画化のオファーもあったんだけど、聞こえないものを聞こうとする、見えないものを見ようとする人の物語。そんなものを撮れる人は河瀬直美さんしかいないと思った。2011年に彼女の作品「朱花の月」に出演させてもらったんですが、彼女は自分が書いた物語以外は絶対に撮らないんです。無理だろうなと思いながら手紙を添えて本を送ったら、1カ月後ぐらいに「号泣しました。私でいいんですか」と返事が来た。

執筆していた3年間、上野さんを精神的モデルにしなが、ビジュアルのモデルを樹木希林さんを書いてきた。希林さんの「ずれ方」がすごく愛らしくてファンなんです。希林さんにも手紙を書いて本を送りました。河瀬さんも口説きにいつてくれて「やりましょ、やりましょ」って言ってくれた。河瀬監督は奄美和光園の療養所に行って、「初めてわかりました。病んでいるのは囲いの外です」というメールを送ってきた。希林さんは上野正子さんにも会いにいつてくれたし、クランクインの1カ月前から手を縛って生活して、ものすごく役に入り込んでくれた。

——国際的な反響は大きかったですね。

2014年1月にスポンサーゼロでスタートした企画が、あれよあれよとスポンサーも決まって、2015年6月にカンヌのオープニングを迎えられた。生きている人間だけじゃなくて、いろんなものが後押ししてくれたような気がします。全員、壇上に上がっ

てスピーチしましたし、すごい拍手が5分ぐらい鳴りやまなかった。希林さんが「拍手している人たち、手が痛いでしょ」と言って、舞台から下がっちゃったので終わりましたけど。カンヌから2週間で40カ国で上映が決まりました。

うれしかったのは、地中海

にある小さな島、マルタの映画祭で作品賞と主演女優賞を取ったこと。まったく違う人種、文化で、審査員の満場一致。観客の熱気が後押ししてくれていた。たぶんマルタの人はどら焼きなんて見たことないだろうけど、人の命とは何かという普遍的なところで、河瀬さんの作品が伝わっている。徳江さんの気持ちが国境を越えたんだと思う。

時間の都合でカットされたシーンも多くありますが、幸せなことに、なぜ俺がこれを書いたのかを、監督と俳優陣が完全に理解してくれているので、シーンの数は減っても違和感はない。完全版は朗読劇でやっています。中井貴恵さん演じる徳江さんはまた違ったよさがあります。全国を回って公演するつもりです。

——千太郎が働く「どら春」は、ハンセン病患者が働いていると噂が立ってお客さんが減っていきます。そんなことが、今の日本であるのかとも思いましたが。

それはね、多磨全生園のある東京都東村山市は今「あん」で町おこし

ようと動いてくれているんですが、あの場面が「それが東村山だということになる」と反対の市民もいるんです。でも市長は「じゃあこの町に差別はないのか」と言ってくれた。

「らい予防法」が廃止されて数十年経つけど、入所者や納骨堂の骨はまだほとんど故郷に帰っていない。受け入れてもらえないんですよ。それが何よりも現状を語っています。本を読んだり、映画を見たりした方から「指が曲がった人がどら焼きを作ったら、その店に私は行きません」というメールも来ます。日常的に接すれば、何ということはないんですけどね。誰だって鼻が取れた人を見ればショックを受けるけど、たくさん経験や、学んだことで、屁とも思わなくなることも立派な教養だと思うんだよね。

——2015年にこの作品が広く受け入れられる意味って何でしょう。

NYでマンハッタンに住んでいて、2001年9月11日の同時多発テロを目の前で見たんですよ。アメリカがどう戦争に向かっていくか、つぶさに見た。アフガンやイラクに行く連中を、ブッシュ（大統領）は「選良」と呼んだ。良き市民が正義、自由のために勇敢に戦うと。日本でも「社会のために」がいつ「国家のために」「役に立つ、これが正義」となるかわからない。もう寸前まで来ていますよ。たかだか100年の人生で、誰のものでもない小さな島のために命を捨ててどうしますか。そんなところが伝わっているのかもしれない。



2015年5月14日、カンヌ国際映画祭のレッドカーペットに立つ、(左から)ドリオン助川さん、樹木希林さん、内田加羅さん、永瀬正敏さん、河瀬直美さん。

6/22 「たそがれの維納」の感想など

・何年も午前の部へ夫婦で楽しみにしてきていました。今年夫が定年でアルバイトになり、平日の昼間にはこれなくなり、私が一人で来ていましたが、今日二人で夜の部にきました。観客が少なくさみしかったが、内容は暖かでそれぞれの立場がきちんとしていてよかった。

・以前、2回程午後の部に参加しました。今回は時間の都合で夜間に参加しました。夜間の部があって、うれしい気持ちになりました。涼しくて、静かでとても良かったです。それぞれの気持ちを察して感激しました。本当のやさしい愛が心に沁みました。

・まずは夜の部を開催していただいて本当に嬉しいです。昼間に上映されているのはわかっていたのですが、どうしてもその時間に行けなくて残念に思っていました。

・初めての参加です。夕方や夜の部があるのは有難いです！！ 平日は日中の部だと、休みを取らなければ来ることができません。素晴らしい企画に感謝します。古い映画を観る機会はなかなか無いですが、良い映画が沢山ありますね。よい機会をいただきました。

・6月、8月と上映時間3回とか、有難いです。映画会への出席は初めてです。この映画も初めてだったが大変面白かった。今後いろんな種類の映画を観てみたい。

・古い映画は見る機会や場所がないのでこういうのはとてもありがたいです。これからも都合がつけば見に来たいと思います。

・古い映画ですが、気持ちがゆったり出来て良かったです。

・素直に感動しました。やっぱり昔の映画はいいです。

・ゆったりとした時代、よいなと思いました。

・珍しい映画を上映していただいて嬉しいです。

・とても良かった。古くて知られていない映画をまたやってほしい。

・大変良かった。昔が懐かしい。

・昔の映画も味がある。舞踏会のシーンがよい。

・オペラや舞踏会・クラシック音楽、さすがウィーンですね！

・ウィーンの原点にふれた気がします。

・カルーソが出てきてびっくり！！

・かなり古いウィーンの物語と思いました。上流社会の話と思いました。

・当時の華麗なウィーンの様子、貴重な映画である。

・ストーリーが面白い。20世紀初頭のウィーンの様子がよくわかった。

・時代の様子が良く描かれていて楽しかった。

・心に沁みる「いい映画」でした。最近の風潮として、人と人との関わり方がとても希薄に思えて仕方ありません。大変な名作でした。有難うございました。

・シェイクスピアの喜劇と悲劇を足して割ったような作品。嘘のような中に人間の真実味がよく出ている。俳優の演技がとても上手。

・それぞれの人の熱い思いと温かい思いや、り今の私に、これほどの“もの”があるかな？って思いました。いいにつけ悪しきにつけ、良かった！です。本当にありがとうございました。いつも楽しみにしています。

・三つ巴のややこしい映画でしたが、温室の場面で暖かい気持ちに戻れました。知らなかったが、この会で観てもらい感動した映画が沢山あります。邦画もお願いします。

・私が生まれる前の映画とは思えないよい映画でした。意味はこまかくはわかりませんがありがとうございます。

・全面流れる音楽と人の優しさ、愛が伝わってよかったです。

・よい内容で、場内も静まりかえって終わった。感動的だった。

・心がほっこりしました。有難うございました。

・とても心温まる作品でした。楽しい時間をありがとうございました！

・心あたまるドラマでよかった。

・楽しいしゃれた映画でした。有難うございました。

・今回で3回目。都合つく限り見に行きたいと思います。

・初めて鑑賞しました。また来たいと思います。

・映画についてはいつも多数の参加者があり、皆さん満足されて帰っていかれる様に思います（私もそうですが）。だからこの行事は立派だと思います。

・女のシットはこわい。愛は強い。ハッピーエンドでよかった。

・きれいな情景の中なのに、どろどろしたこわい心の中を感じます。

・上流階級の人々は愛だの恋だので生活のできるの、私のような下々の者にはまったくバカバカしくて、イライラする、あり得ないことだらけだ。

・こんな退廃的な映画は見たくない。もっと建設的な明るい希望にあふれた映画を観たい。

・上流生活を垣間見たが少々退屈な映画でした。

・今日は話の内容が難しかったです。

・期待してきた映画だったが残念ながらダメでした。美しく楽しい映画ではなく。

・たまには料金（500円位まで）をとって少し新作を上映できないか。今日の映画は駄作。

・字幕付き映画を上映してほしい。案内（パンフレットなど）に、字幕が付くか否かを明記してほしい。

・映画の時は駐車場の時間が気になり図書館に寄れないため自転車である。

・アンケートの答えを書かなくてはいけないと映画に集中できなかった。

・古い映画も良いが、モノクロはやめてほしい。

・古い原盤なので仕方がないと思いますがもう少し明るくならないでしょうか。

・解説があるとよいと思いました。

・立って話す係りの側にOHPがあったらいい。今度の『あん』には字幕付きとあるので、母を施設に送り出したなら観に来たい！『あん』に邦画にも字幕の必要性のあることが明記されていたことが有難いです。例えば今回の上映会でも、場内外に設置された入れ物に「アンケート入れ」と目に見える情報があるだけでも違ってきます。できれば、繰り返し流される待機画面に、なぜ『あん』に字幕が付くのか流していただければ嬉しいです。

・洋画と日本画を半々にしてほしい。

・日本映画の古いものをやってほしい

・アメリカ映画 西部劇

・ラストエンペラーを上映してほしい。

・いつもステキな映画を上映していただき楽しませてもらっています。

・いつもボランティア有難うございます。

・スタッフの皆さんの温かい対応に感謝しております。

・楽しかった

・素晴しかった

・感動した